

第2回 学校運営協議会 記録（令和8年9月17日実施）

1 全体会

- （1） 会長挨拶
- （2） 校長挨拶
- （3） 前期教育活動の取組について（教頭より資料の説明）
- （4） 学校評価（中間評価）について（教頭より資料の説明）
- （5） 講話：演題「学校運営協議会における熟議についての一考察」
講師：北海道地学協働アドバイザーの藤田泰昭様（土別市立糸魚小学校長）

2 部 会：各部会で協議された内容

◎地域連携・探究部会

【制服（ポロシャツ）改定について】

- 現行の白の指定ポロシャツに加え、白・黒・紺の無地も認める改定案に、出席者からの賛同が得られました。
- ・ ほとんどがポロシャツやジャージで登校している島内中学校の状況とも合致するだろう。
- ・ 生徒の要望から始まり、アンケート、保護者説明、教員協議と段階を踏む進め方がよい。

【学校の魅力化・島内生徒の進学率の向上に繋がる取組について】

○部活動の連携について

- 教員より提案→学校事情で部活動が設置・廃止され、小中高の繋がりが途切れている。
生徒数が減っている今、中学と高校での部活動の繋がりを考え、島全体で取り組む仕組みが必要ではないか。
- ・ 島として力を入れる競技を、小中高・少年団・社会人まで含めて話し合う場が必要だという点で一致。
- ・ 約10年前、中高合同のバドミントン練習が話題になったが実現しなかった。
- ・ 中高合同練習は、中学生の「先輩がいるから続けたい」という動機づけと、高校生の教える学びの両方にプラスになる。
- ・ 部活動は「指導できる教員がいるか」で決まってきた。地域移行で地域の指導者が関われば、教員の異動に左右されにくくなる。
- ・ 小中学校の運営協議会と合同開催にすれば、意思統一の場にできるのではないか。高校の協議会だけでは小中学校の考えが分からず、つながりをどう作るのが課題。

※協議を受けての今後の課題

- ・ 小中高での話し合いの場をどのように作るのか、そして島として力を入れる競技を誰がどう決めるのか。
- ・ 島内中学生が「利尻高校に行きたい」と思える魅力は何か。

◎生徒支援・魅力化部会

【本校の魅力化・島内生徒の進学率向上に繋がる取組について】

(1) 島外進学の実状と課題

- ・ 島外に出てみたいという憧れや、私立高校の授業料無償化・積極的な生徒募集（部活動のスカウト等）の影響により、島外へ進学する生徒が増加している。
- ・ 利尻高校の進学実績や学費面のメリットなど、本来持っている強みをより積極的に中学生や保護者へPRしていく必要がある。

(2) 部活動の現状と地域・小中高での連携

- ・小学校・中学校で盛んに行われているスポーツ（バレーボール、サッカー等）が高校にない、あるいは中学校で部活動が継続できない等の理由で島外に出てしまうケースがある。
- ・生徒数減少により単独校での団体スポーツ維持が困難になっているため、地域クラブや社会人サークル等との連携・仕組みづくりの検討が必要である。
- ・フットサルなど少人数で実施可能な競技の導入もアイデアとして出された（宗谷はフットサルが盛んで強い）。
- ・学校単位だけでなく、小中高・地域（少年団や指導者）が一堂に会し、地域全体のスポーツ・文化活動をどう残すか協議する場を設けることが重要である。

(3) マクドナルド留学（アメリカ短期留学）について

- ・利尻高校で実施されているアメリカ留学プログラム（今年度は2名参加予定）は非常に魅力的であり、中学生の関心も高い。
- ・予算や英検等の基準設定があるが、希望者枠の拡大（3～4名への増員など）や、費用補助・支援体制の更なる強化について協議会からも働きかけていくべきである。
- ・アジア圏など他地域の選択肢検討や、地域一体となった支援のあり方も検討が必要である。本校の留学はロナルド・マクドナルドの史実にちなんだ、アメリカ短期留学制度であるため、アジア圏は難しいという意見が挙げられた。